The Japanese Red Cross Society of Nursing Science
日本赤十字看護学会
NEWS LETTER
Vol.21, 2023.
日本赤十字看護学会ニュースレター　第21号　2023年12月発行

関東大震災100年
温故備震　故（ふる）きを温（たず）ね 明日に備える

日本赤十字社 広報室 赤十字情報プラザ参事
大西 智子

日本赤十字社所蔵の資料から、関東大震災の被災者のうち述べ200万人を日赤が救護したことが判りました。東京本社や関東地域の支部は被災しながらも救護を開始し、それを支援するため全国から救護班が結集しました。また親戚縁者を頼り、関東から全国各地へ逃れた被災者のうち、治療や保護を要する人々を日赤支部やボランティアが受け入れたことも。さらに支援は国内にとどまらず、世界の約30か国に及ぶ赤十字各社が日赤を支援しました。

これは、佐野常民が日赤（博愛社）を設立して46年目、日赤が看護師養成を開始してから33年目のことでした。

佐野さんは、日赤の設立当初、「政府は充分救護の術を尽くしているが、それでも救護の手が及ばず、苦痛に耐えて死を待つだけの人々がいる。それを私たち同胞が袖手傍観（袖に手を入れたまま、見ているだけ）でよいのか。すべてを政府任せにして、苦痛の中にある人々を顧みないことは、人の至誠に悖（もと）る（人の誠の心に反する、道理にそむく、などの意）。」と、記しています。

日赤は、明治10（1877）年の西南戦争の最中に誕生し、その後、活動を支える人々（今の会員）を募集し、活動を開始。西南戦争の後は、ジュネーブ条約（赤十字条約）への日本政府加入を実現し、国際赤十字のグローバルなネットワークの一員として、いざという時に派遣できる救護員（看護師）養成を行いながら、平時から病院を経営し、全国にボランティアを組織して、数々の戦争や自然災害などの救護活動の経験を積みました。

関東大震災で延べ200万人を救護したのは、決して奇跡ではなかったと言えるでしょう。

企画展は、2024（令和6）年3月28日まで公開しています。

※12月29日から2月上旬にかけてプラザ内の工事のため一時休館します。予約の際、事前にお問い合わせください。なお、インターネット上の「赤十字ＷＥＢミュージアム」でも、企画展内容をご覧いただくことが可能です。

日本赤十字社　本社1階　赤十字情報プラザ
事前予約制　開館日　火・水・木　10時～16時半（12時半～13時半閉室）
見学無料　東京都港区芝大門1-1-3
予約　03-3437-7580
ＭＡＩＬ　plaza@jrc.or.jp

赤十字ＷＥＢミュージアム　https://www.jrc.or.jp/webmuseum/

最近の赤十字の看護職による災害救護活動（2022～2023年度上半期活動一覧）

国際活動への派遣

事業	所属施設名
バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、福岡赤十字病院、武蔵野赤十字病院、東京かつしか赤十字母子医療センター、日本赤十字社医療センター
パレスチナ赤新月社医療支援事業	大阪赤十字病院、姫路赤十字病院、福岡赤十字病院、日本赤十字社医療センター、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、広島赤十字・原爆病院、沖縄赤十字病院、鳥取赤十字病院
中東人道危機救援事業	日本赤十字社医療センター、日本赤十字社和歌山医療センター、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
国際赤十字・赤新月社連盟タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム国クラスター事務所	大森赤十字病院
シエラレオネ中央子ども病院サービス向上プロジェクト	熊本赤十字病院、大阪赤十字病院
トルコ・シリア地震救援事業	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、姫路赤十字病院
南スーダン紛争犠牲者支援事業	日本赤十字社和歌山医療センター

国内救護活動※救護班として派遣された看護職を含む

災害救護派遣先	所属施設名
令和4年8月3日からの大雨災害 関川村各避難所・被災集落	長岡赤十字病院
令和4年8月3日からの大雨災害 今庄診療所	福井赤十字病院
令和4年8月3日からの大雨災害 余呉街づくりセンター避難所	長浜赤十字病院
令和5年石川県能登地方を震源とする地震 珠洲市健康増進センター	金沢赤十字病院
令和5年7月7日からの大雨災害 秋田市東部市民サービスセンター 五城目町役場 秋田市中央市民サービスセンター	秋田赤十字病院
令和5年7月7日からの大雨災害 東峰村社会福祉協議会	福岡赤十字病院 今津赤十字病院 嘉麻赤十字病院
令和5年7月7日からの大雨災害 唐津市災害ボランティアセンター	唐津赤十字病院

第49回フローレンス･ナイチンゲール記章を受章して

国際赤十字･赤新月社連盟（IFRC）シリア代表部、保健コーディネーター
姫路赤十字病院　看護部　副部長　髙原 美貴

この度、看護師にとって最高の栄誉である第49回フローレンス・ナイチンゲール記章を賜りました。現在シリア・アラブ共和国の国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）シリア代表部で、保健コーディネーターとして活動中です。当地で受章の知らせを受けたときは自分のことと自覚することに時間がかかりました。正直、いまだに戸惑いがぬぐいきれておりませんが、これから特に国際救援や災害救護にかかわることをめざす後輩たちに恥じないように精進し続ける思いを新たにしました。

今回の受章理由の中に、2002年に参加したアフガニスタン紛争犠牲者救援で地雷で損傷の激しい遺体に「整体※」を同僚とともに実施した活動があげられました。これは、現地バーミヤンのイスラム教徒の考え方に寄り添って考えた結果でありますが、そこに思い至ったのは、1985年の航空機墜落事故の際に日本赤十字社救護班の皆様が、ご遺体の尊厳を守り、ご家族への配慮の心を実践された旨を看護学校の先生に「赤十字の看護は違うんやで！」と熱量のこもった授業をしていただいたことが脳裏に残っていたおかげと考えます。そして、国や文化が違っていても相手のことを思いやる心は変わらないことを実感できた経験でもあります。

このように、私を育んできてくださった赤十字の看護実践のさらなる進化と後進への啓発活動をされる日本赤十字看護学会様のますますの発展を祈念しております。

※「整体」とは、1985年に発生した520名が亡くなった航空機墜落事故の際に故人の体形を遺族から聞き取り、その場にある資材を利用して「損傷のひどい遺体を生前の姿にできるだけ似せて整復する方法」として、日本赤十字社の看護師が救護活動として実施したものである。

日本赤十字社

日本赤十字豊田看護大学開学20周年

日本赤十字豊田看護大学　学長　鎌倉 やよい

本学は、2004年に日本赤十字社の中部ブロックを代表する看護大学として開設されました。豊田市、日本赤十字社、中部ブロック支部・赤十字病院、愛知県支部、赤十字学園から、多大なるご支援を受けて誕生し、2010年には大学院看護学研究科修士課程、2016年には博士課程を開設し、今年20周年を迎えました。皆様のご支援に改めて感謝申し上げます。

20周年事業として、5月に吉鶴洋一様によるクラシックコンサート、7月に富田博樹理事長の講演、10月に筒井宣政様の講演、11月には記念式典、福和伸夫様の基調講演、シンポジウムが開催されました。本学はこの年を更なる発展の機会と位置づけ、教育の質の保証、災害看護学など赤十字の特徴を明示し、地域に開かれた大学として尽力する所存です。

また、赤十字6大学間での教育における共同に向けて、本学は多くのご寄付によって講堂にLEDパネルを設置することができました。さらに、赤十字学の構築に向けて、赤十字史料デジタル化事業も始まりました。将来に向けて、赤十字の人道の理念のもと、6大学間の協働、さらに日本赤十字社の病院・施設と連携し、本学は看護職の育成に尽力いたします。

伊達赤十字看護専門学校の閉校

伊達赤十字看護専門学校　副学校長　藤川 満里子

伊達赤十字看護専門学校は令和5年度末（令和6年3月）をもって閉校することとなりました。

本校は、昭和19年北海道庁長官の指定のもと「伊達赤十字病院看護婦講習所」として開設したのが始まりです。昭和51年7月に専修学校の認可を受け、「伊達赤十字看護専門学校」と改称いたしました。看護に関する幅広い能力を備えた赤十字看護師として、保健医療活動をはじめ災害救護活動、国際救援活動など広く社会に貢献できる人材の育成をめざすとともに、赤十字運動の強力な推進者を育成するために、赤十字の理念に基づく特色ある教育を行ってきました。80年の歴史と伝統のある看護学校で1755名の卒業生を送り出しました。平成12年3月に起きた有珠山噴火時には「心のケアセンター」と連携して、伊達赤十字看護専門学校学生奉仕団が被災している子供のケアにあたる等、地域との連携を深める活動もありました。

卒業生の皆様には母校の閉校という事で残念な思いでいらっしゃる事と推察いたします。皆様が今後も長い伝統と歴史の中で築かれてきた人を大切にする赤十字のこころを忘れることなく、より一層社会に貢献される事を願っております。

学校の外観

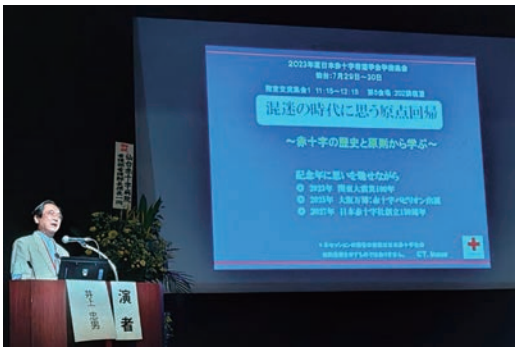
最後の戴帽式

第24回日本赤十字看護学会学術集会を終えて

第24回日本赤十字看護学会学術集会
会長　髙橋 純子

第24回日本赤十字看護学会学術集会は、2023年7月29日・30日、仙台市戦災復興記念館にて、猛暑の中での開催となりました。4年ぶりの全参集型の学術集会は、参加者400人を超え、「赤十字看護の伝承と躍進」をテーマに、学びと同時に親睦を深める時間が持てました。

今回の学術集会では、井上忠男先生の基調講演、賀来満夫先生の特別講演、原玲子先生の教育講演、その他多様な企画があり、どの会場でも活発な討議や意見交換がなされ、改めて赤十字看護のありようを考える2日間となりました。石巻ならではの被災地視察プログラムや矢野きよ実さんの「書」のデモンストレーション、看護学生対象の特別企画など、本学会には珍しい企画にもチャレンジしました。参加者の皆様には楽しんでいただけたでしょうか。私たちのビジョンに、ご理解・ご支援いただいた理事会はじめ会員の皆様には改めて感謝いたします。貴重な機会をいただきありがとうございました。



井上忠男先生基調講演

会長講演

第25回日本赤十字看護学会学術集会に向けて

第25回日本赤十字看護学会学術集会
会長　村田 由香

この度、第25回日本赤十字看護学会学術集会長を拝命いたしました村田と申します。今回は2024年7月20日・21日に、日本赤十字広島看護大学（広島県廿日市市）にて開催いたします。本学術集会のテーマは、「赤十字の看護－本質を捉える－」としました。近年、臨床現場や教育現場では、様々な未曽有の出来事に直面していますが、学会設立後4半世紀を迎え、改めて赤十字の看護の本質や教育の本質に向き合い、実践に根差した知の発展を目指していきたいと考えております。基調講演では川嶋みどり先生にご登壇いただくほか、教育講演や特別講演に加え、今日的トピックのシンポジウムや交流セッションなど、多彩なプログラムを準備しております。ご参加いただく皆様とともに、自由で闊達な議論をし、楽しく豊かな学びのある時間になりますよう、企画委員一同、心よりお待ちしております。

NEWS LETTER　The Japanese Red Cross Society of Nursing Science　Vol.21, 2023.
日本赤十字看護学会ニュースレター 第21号 2023年12月発行

●発行　日本赤十字看護学会　広報委員会
東京都渋谷区広尾4-1-3　日本赤十字看護大学内
●学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。
https://plaza.umin.ac.jp/jrcsns/publication/
●学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。
hara@rcakita.ac.jp
t-takeuchi@rctoyota.ac.jp　までお願いします。

●編集後記

今期の本委員会でお届けする最後のレターです。この期は、コロナ禍における赤十字看護師の活躍等を中心にお伝えしてきました。新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に変更され、感染予防を行いながらでも対面の良さを感じた1年ではなかったでしょうか。（原　玲子）